

何もしなかったら進展もない。 5年後の龍神を良くするために行動を起こした

株式会社龍神村 代表取締役 伊藤 研 治



伊藤研治さん

この夏、龍神村に「ドラゴンミュージアム」がオープンしました。このミュージアムを運営する株式会社龍神村の伊藤代表に、龍神村の現状、田辺市との広域合併、地域振興への思い。株式会社龍神村の活動などについて聞きましました。伊藤さんは、土木建築業を営み、長く龍神村商工会々長をされています。聞き手は柳田理事です。

柳田：私達は今、広域合併した田辺市で、18年たつて合併の成果なり問題点を炙り出そうと、本宮、龍神、中辺路の人たちの声を聴いて懇談会などの取り組みをしているところです。そんな中で、やっぱり人口減少、過疎化の問題が深刻だとあらためて感じています。

伊藤：少し関係のない話をさせてもらうけど、ここ15、6年前位から龍神村ヘイターンしてこられた方が少しずつ増えてきた。その人たちと懇談する場があって、その中で、その人たちのほぼ一致した意見として「河川整備や道路整備が自然を壊している」ということでした。それに自分たちよつとカチンと来て、詳しく聞くと、「川は壊れる、自然は壊れる」と言う。思わず反論して「勘弁してくれ、自分は昭和33年に生まれてここので育ってきたが、この歴史を知らずに、勝手なことを言わないでくれと。小学生の頃まで、今というインフルエンザ、昔は感冒と言ったけど、4、5歳位で感冒にかかったら皆死んでしまった。山仕事でワイヤーに巻き込まれて腕を落とす人もしょっちゅうあった。林業の村やからな。みんな死んでしまった。それがだんだんなくなってきた、今やもう感冒で死ぬ人は誰もないし、少々のケガだったら助かる。それは昭和40年頃まで病院に行くのに2時間10分かかって間に合わなかった。今は、50分あったら行けるわけで、さらに最近では、ドクタ―ヘリも整備された。自分達

にしたらやつと人並みの生活ができるようになった。今その状態で龍神に来て自然が素晴らしいと手放しで言うのはやめてくれと。ここで皆さんと共に暮らしていこうと思つたら、昔のことを一回調べて自分が言っていることが本当なのか嘘なのか確かめてくれ」という話をした。それから以降、道路整備が不要とか、龍神では文句を言う人はいなくなつた。なんでこんな話をしたかと言うと、やっぱり病気や事故などで死にたくないから、町や大病院が近い所へ出て行つた。もつと文化的な生活が安全にできる大阪や和歌山市へ出て行つた。その結果が昭和30年の8500人から今3000人割るような人口になってきたと思つている。

龍神村の現状と 何とかしたいという思い

柳田：働く場所がいえば、どんなところがあるんですか。

伊藤：公務員、先生、観光で温泉があるけども、大きくは龍神温泉と小又川温泉の宿泊施設、森林組合や建設土木やな。

柳田：旅館には大勢働きにい

目 次

何もしなかったら進展もない。 5年後の龍神を良くするために行動を起こした 株式会社龍神村 代表取締役 伊藤 研治	1
第12回 わかやま住民要求研究集会 第3分科会 産業・経済・町づくり コロナ禍の飲食業の状況と和歌山民商の取り組み 和歌山民商会長 井上 彪さん	5
県下各地から② 白浜町の地域公共交通を充実させるために 白浜町議会議員 横畑 真治	8
お知らせ(グループLINEに参加を)	8

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号
TEL・FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2022年 11月号



ドラゴンミュージアム

っているのですか。

伊藤：結構いつているよ。例えば上御殿、下御殿というような旅館さんへパートで大体平均3人ずつぐらい、まかないや手伝い、布団敷きなどで通っている。でも今はコロナ

でほぼ全滅状態。自分は商工会々長を仰せつかつて13年になるけど、今は大阪が緊急事態宣言を出すかどうかが一番

気になっている。発令したら必ず京都、兵庫も一緒に、次の日からキャンセル、キャンセル。自分は今季楽里龍神という旅館の副理事長も

っていて、旅館の状況もわかる。この間大阪が赤から黄色にな

っただけで、15、6%宿泊客がアップした。だから龍神の観光。宿泊は大阪の動向ひとつで左右される。

柳田：龍神には土建業者は何軒くらいあるんですか。

伊藤：土建業者は、業界で11社。業界以外で1社。以前は25社あったやつが今もう半分以下。仕事量によつて減つて来たというところ。極小さいと

こか大きな閉められた。柳田：それでも、何人ぐらい働いておられるんですか。

伊藤：各社様々やけど、全体で、まあ臨時の人もいれたら130、40人程度かな。

柳田：この辺は、農業では生活できない？

伊藤：でも農業している方が確か2人おられる。詳しくは知らんけども、都会のスーパ―さんと契約をして注文に応じて野菜を出荷するみたい

米で生計を立てている人はいない。

柳田：梅とかで生活している人もいるの。

伊藤：農協の方から勧められて梅を作った人もいたけども、借金をして木を植えてモノラックを付けて始めたけど、大体皆さん12年位でやめてしま

った。一生懸命やっていたけど、最後は借金を残したまま放棄した人も多いと思うで。

柳田：村に、集落いくつあるか知らないけど、大体みんな限界集落になつてい

たんですか。伊藤：仲間つていうのはあくまで龍神商工会の青年部の人

か。柳田：そういうあんたの発想は、商工会々長をする中で、なんとかしなければとの思いからみんなと相談したそう

ですが、どういう方々と相談し

たんですか。伊藤：仲間つていうのはあくまで龍神商工会の青年部の人

たんですか。伊藤：仲間つていうのはあくまで龍神商工会の青年部の人

たんですか。伊藤：仲間つていうのはあくまで龍神商工会の青年部の人

たんですか。伊藤：仲間つていうのはあくまで龍神商工会の青年部の人

田辺市との合併の功罪

柳田：龍神村と言え

たんですか。伊藤：仲間つていうのはあくまで龍神商工会の青年部の人

たんですか。伊藤：仲間つていうのはあくまで龍神商工会の青年部の人

たんですか。伊藤：仲間つていうのはあくまで龍神商工会の青年部の人

たんですか。伊藤：仲間つていうのはあくまで龍神商工会の青年部の人

たんですか。伊藤：仲間つていうのはあくまで龍神商工会の青年部の人



ミュージアム展示作品

と生き残れない。だからその努力を続けてきた。それで会社が強くなった事に気づいた。例えば単価競争でも一個の単価を現場と照らし合わせて、一つ一つカットしたり積み上げたりする。そうしたことをコツコツ繰り返し返すことによって、真面目にもなり賢くもなり、会社も体力がついてきた。そういうのもいっぱいあると思う。

ちよつと個人を褒めて申し訳ないけども、真砂田辺市長が田舎出身の市長やから、この存在が大きい。田舎の気持ちというのが分かる。田舎のこんなところが辛いとかやとかこうしてもらったら喜ぶという

事を。例えば田辺市内出身の市長さんだったら、いくら理屈を言っても、ピンとこない。真砂さんが合併後ずっと市長を務めてくれたというのはありがたかったね。

柳田：住民の声が届きやすい。伊藤：さっき言った、田辺市が中心になるというのはあたり前です。でも真砂さんのおかげで、行政の格差を、今まで感じたことなくきたな。また逆に、行政に頼っているだけじゃいかん。自分らでなんとかしていかないとふうになったのもあるわ。

(株)龍神村の立ち上げとドラゴンミュージアム

柳田：ところで、テレビで放送していた、河川敷でバーベキューを出来るようにしたり、埋もれている観光資源を発掘するのにあちこち歩いて回ったとか、古道を整備したという話もしていたが、どんな取り組みをしているんですか。伊藤：「龍の里造り委員会」というのを田辺市と一緒に作って、そこへイーターン者とか、さっき言った青年部の人らで組織して、それで部会に分かれて、食文化を見直そうとか。熊野古道では奥辺路っていう

昔あった道を調査する部会。青年部の人らがどんどん参加して、そういう事を2年やって掘り起こした。それを観光客誘致であるとか、物品の販売であるとか。要は夢語るだけ調査するだけでは長続きしない。そういうものを組織で取り上げてそれを商売にして、そこから金が還元されてくるといふ形になれば、継続的になるということ。この株式会社龍神村を立ち上げたことから、今質問のあったことについてまとめにかかっている。

このドラゴンミュージアムの場所というのが元々。地元有志がレストランをしたけど7年程で頓挫し、その後、酒のサンワさんが買い取って、それも6、7年で引き上げて、その後10年間ほど廃屋で残って、年々建物が壊れ、それに駐車場だけ空いていたので、夏はここへ車を止めて河原でバーベキューをしてゴミをその便所の横に積み上げる。それをこの区の人らが処分をして、観光客と探めてけんかになる。そんな事をずっと繰り返していた。そこに田辺市の建設課の空き家対策のプロジェクトが出来て、国からの補助も出る。それを龍

神の安達市会議員が聞いてきて、「伊藤さんこの補助金を使ってここを再生したらどうか」と相談が入った。それでみんなで話を進めることにした。自己資金が3000万ほど必要だが残りの資金は国から補助されるということで、それでここを改築して、皆さんには喜んでもらった。毎年の風物詩だった、観光客とのゴミ問題それが一気に解決できるということ。皆さん協力をしてくれて、ここを立ち上げた。

柳田：その資金は、株式会社龍神村で出したの。

伊藤：株式会社龍神村を立ち上げるのに、一口20万円呼びかけて30人集めて600万円の資本金で会社をつくった。政策金融公庫さんに、こういう計画でお借りしたと申し込んだら認めてくれて、今借金だらけで、これからもつとしていかなあかんから大変や。

また偶然に、元局長だった人が「海洋堂」の80歳の会長さんと繋がりがあって、こういう建屋ができるようになった時に、会長さんが、出身地の四国の四十十川に「カッパ館」というのを開設していて、その「龍の版」をしないかという話になった。「海洋堂」

というのは国際的に有名なフィギュアメーカーで、大阪門真に本社があつて毎年ワンダーフェスティバルという全国のフィギュアファンや関係企業を集めて2日間のお祭りがある。そこで「龍神村龍の造形大賞」の募集をかけてみませんかと。2021、22と2年続けてやった。両方で183点、展示していましたが、皆さんすごい。子どもさんの実に可愛い龍もあるし、本格的で精巧にできたのもあって、応募した作品はその後、こちらで展示させてもらうという条件でお願いしています。それでここを「ドラゴンミュージアム」という展示会館にしました。

柳田：それで、かなり反響があった。

伊藤：おかげでな。でも一つ気づいたな。今言った流れの中で、何にもしてなかったら何の進展もないし、進展ないからそれに対する協力者も出てないし、わけがわからんままでも、何かを始めたら必ずなんだかの偶然であるとか、協力者であるとか、これは偶然じゃなく、行動した、始めたからと分かった。

柳田：これからの取り組みの中で、今まで聞いたようなこ



竜神温泉

とで、そういうＩターン者を確保して、取り組んでいく方向とか、克服する課題とか、そこらはどんなに考えておられるんですか。

一番の課題は、 お互い組まなあかん

伊藤：自分は単純にしか考えてない。いろんなことを取り組んで、うまくいこうとやることもあるし、行っていないやつもある。一番克服をせなあかん課題というのは、各個人バラバラでやるやつを一本化する。一本化できないまでも最低限お互いに連絡を取り合う。これに尽きるな。Ｉターンで素晴らしい人がいっぱいいるが、何かやって一緒に協力しましょうというのは、今の段階では期待できへん。それだけで

はない。例えば、龍神温泉の売り出しを、皆さんで取り組むようなことは、今は皆無や。自分らは自分でやるからみたいな空気のまま今まで来ている。

商工会で、龍神フエアを都合４回した。高島屋さんから声がかかって、第一回は和歌山市駅のとこでえらい賑わってよかったわ。その時に足湯っていう条件があつて、龍神温泉協会では腰が重かったけど足湯も出してくれた。その次、堺市の高島屋泉北店となつて、それでもめしたわ。商工会はすぐオッケーだったけど、龍神温泉協会が遠いというので、結果的に運んでくれるのだったらしますというので、個人的にうちの回送車を使って、温泉の足湯セットを運ぶのと、毎朝汲んだ温泉を劣化するっていうことで掛け流しにする。一週間開催するので毎日その条件で出すことができた。ここでも喜んでくれた。「わしも龍神に行つたことある」とか、「一回行きたいと思つてい

たいと思つてい

た」などと。その次に高島屋の難波店。ここでもやると、ありがたいな。どんどん出世していくなど。ところが、難波へ行つたら、龍神温泉を知っている人が半減した。泉北までは１００％だった、難波に行つたら半分になつた。そこから７ヶ月経つた時に梅田阪急さんからこちらでも開催しませんかとなつて阪急でした。そうしたら、龍神温泉を知っている人は一割おらんかった。「龍神温泉つてどこにあるのですか」という感じで。当たり前や、大阪の北の方の人にとつて温泉は有馬温泉。山城温泉や山中温泉。白浜温泉は知つとる。勝浦温泉も聞いたことがある。龍神温泉を知っている人はほんまにおらんかった。龍神温泉の人にはずばり言えんが、所詮こまでや大阪でも、直線距離で３km北に上がったらもう誰も知らん。これが現実なんや。温泉の人らはわしら全国規模やとドーンと思つていけるけども、実際は違いますよ。まして今から１０年１５年後、今の若い人らが年とつた時には、必ずそれはもつと進む。龍神温泉つて多分若い人らの時代になつてしまつと、知名度が今の１／３になる。これじゃあかん

というのが一番のスタートなんやけど。やつぱり組まなあかん。

柳田：それいつ頃の話。

伊藤：組まなつて言つたのは、今から４年前。そこからもう訳も分からんと走つてきて今に至るまで。正直今でも正解なんかどうかは自分もわからない。けど何にもせんままやりも、多少間違いだつたとしても騒ぐ方が必ず正解なはずやから実に乱暴に進めている。柳田：河原のバーベキューはどうですか。

伊藤：それは、今年試験的にやりました。食材の提供はまだ今年はやってないけど、来年から本格的にしようと思つた。今年自分らがしたことは、「ごみは必ずお持ち帰りください」っていう呼びかけとちよつと監視程度。おかげで今年は出したごみは１００％持ち帰つてもらつた。

柳田：雇用の拡大を図りたいということですけど、そこらの見通しはどうですか。

伊藤：わからんと言つたのが正直なところ。とりあえず皆にね。一年間はボランティア。ここへ来る受け付けや、横の周辺整備も含めて弁当持ち出しで、でもまあ２年かかるな、１年と思つてたけども、やつ

ぱり甘いことないわ。

一応２年間無報酬でやつてみて、お金が残るはずやから３年目にはいくばくか、とにかく若い人に配つてと今は思っている。乱暴なもんや。５年後には、ここで働く人の給料を出すように持つていきたいと思う。大体手取り１５、６万程度になるようにな。

柳田：今日はここを通り過ぎて場所がわからなかった。大きな看板ほしいな。

伊藤：みんな通り過ぎて引き返してくる。この屋根に大きな龍を這わすしかないと思うけど、予算がないわな。看板を立ててのぼりをあげてるのやけど、看板じゃ気づいてもらえん。中山路郵便局と案内する方が分かりやすいのかなと思つている。ドラゴンミュージウムみんないつペン見に来てもうてよ。

これからも、株式会社龍神村で、色々なアイデアを具体化して、龍神村を盛り上げて行くさかい注目しておいてよ。柳田：ここで育ち、龍神村を良くして行こうという思いが、今の行動につながつていいると思います。仲間の皆さんと共に、前に進めて行つてくださいます。本日は、ありがとうございます。

第12回 わかやま住民要求研究集会

第3分科会 産業・経済・町づくり

コロナ禍の飲食業の状況と 和歌山民商の取り組み



井上彪さん

和歌山民商会長 井上

たけし
彪さん

10月8日に和歌山市のプラザホープで開催された第12回わかやま住民要求研究集会の第3分科会で報告された「コロナ禍の飲食業の状況と和歌山民商の取り組み」について掲載しました。報告者は和歌山民商会長の井上彪さん、司会進行は和商連の西均さん、助言は研究所理事の鈴木裕範さんです。

みなさんこんにちは、新内（アロチ）でラーメン屋をしています。親父の代からですが親父は始めて1年で死んでしまつて、私は16歳から屋台でラーメン屋を始めて今年で62年になります。新内というのは和歌山市の夜の繁華街です。スナック、飲食店が約800軒ほど。500m四方に軒を並べるという街です。

コロナが始まった頃、中国で発生して、日本にきた豪華客船でコロナが発生しました。和歌山で一日2000人の発病とかすごい状況で、最近やつと300人とか200人に落ち着いてきて店を開けています。

客が戻らず、 家賃が出ない

私は民商で、スナックの会員さん40軒位、集金し

たり相談にのったりしています。集金に行つた時に「最近どうですか」と聞いて回つたのですが、まあ100%売上はダウンです。お客さんが戻つていないという店は一軒もいません。なかに、一週間で誰もこないという店が一軒あり、1人だけという店もありました。以前はよく流行つてお客さんがいっぱいいて、周辺を回って2、3回行かないと集金できない。そんな店でも、今は誰もいないか精々1人か2人。ほとんど街の中を人が歩いていません。金曜、土曜になれば少しは若い方が出てくるのですが、ちょ

つとガラが悪い。ワイワイ騒ぐばかりで、コロナ前後で客層がコロッと変わってしまった。スナックのママさんが一番困っているのが家賃です。家賃がとにかく出ない。一週間に金、土以外にお客さんが来ないのが普通。それなりにママさんも



第3分科会の様子



新内の街の様子

努力して、お惣菜をカウンターに並べて無料で提供している店もあります。それでもお客さんが来ないと商売にならない。お客さんに電話するのですが、「会社から出て行ったらあかんと言われている」と返事されたらそれ以上言えない。お昼から働きに出るママさん

先も少なく、ママさんも高齢化してきて、先の見えない状態。いつまで商売できるのかなあというのが現状というか、そういうとこまで追い込まれています。それと今大変なのが、借入金借りているお店。いよいよ返済の時期が来ます。この返済を何とか伸ばしてもらわないと、家賃

も払いかねている状態で借入金の返済はともて出来ない。このままなら廃業も仕方ないというのが8割方です。8割ですよ、それ位つまっている。返済を伸ばすように言っ

れを所得に入れたら市民税が課税になったり、国保が何倍にもなったり、入院した時の食事の援助とか、いろんな特典がなくなってしまう。それで、ビックリしているところスナックのママさんに聞きました。この苦しい時に消費税を払って、支援金って困っているから出してくれたのに、そういうものも税金の対象にするのは許せない。本当にそうだと思います。

県との交渉で、 支援業種を 広げてきたが

ちよつと話が遡るのですが、飲食宿泊支援金というのが県から15万円出たのです。それで飲食宿泊はいけど、付随する酒屋さんとか運転代行、おつまみ屋さん、おしほり屋さんとか、スナック、飲食に係っているところが全部止まっている。飲食宿泊だけじゃないということ、民商で県と何度か交渉してかなりの業種が支援の対象にするこ

とができました。それは運動の中で、民商としては一番大きな成果だったと思います。

今、資金繰りが大変なので一番欲しいのが現金なんです。この間も県庁へ行ったのですが、現金はもう支給しない。プレミアム商品券しか出さないということです。でも、プレミアム商品券を持ってラーメン屋に來られても対応出来へんし、お金が入るのが遅いし、みんなも我々の街に係ないと言っています。プレミアム商品券はやはりスパーなどの小売り大手に行ってしまう。一番支援してほしいのは現金ですが、この先出るような見込みもないし、民商さんなんとも一回出るように言うてほしいとみんなが言うのですが、それが現金を出してもらいうまでの交渉まで行かない。市とも交渉したのですが、市もあんまり出す気がないみたいやし、ともかく「お金がない」と言われたら終わりです。

10月からインボイス制度

というのが始まるのです。消費税は売上1000万円以下の業者が免税で消費税を払わなくても良いのですが、会社に対して領収書を切るときは、「インボイス」と言っ、税務署が発行する領収でないと、会社の支払う消費税から控除できない。本来1000万円以下で消費税を払わなくていいのに、消費税支払い業者にならんと、「インボイス」の領収書がもらえない。このしんどい時に、消費税までまた復活するのです。それで、会社関係の客の多いスナックはかなり頭を痛めています。夜の街じゃないのですが、建築業者の1人親方とかでも、建築業界の下請けとか孫請けで「インボイス」の課税業者にならんと仕事のグループへ入っていけない。1000万円以下からそういう税金を取ったら、潰れるのが分かっているから今まで消費税を取らなかったのに、インボイス制度を作っ、まだ苦しめてくる。本当にどこまで苦しめたら気済むのか



街角の「みんなでがんばろうね」

と思うぐらい腹立つ制度です。

こんな時こそ
力になりたい。

生の声を
聴いてもらいたい

私、62年も商売しているので新内ではうちより古い店はないのですが、今までドルショックとかオイルショックとか不景気はあったけど、これほど3年も続くような不景気はなかった。割と波があつて、底があれば上があるという感じで来たのですが、バブル崩壊

後、消費税が上げられるにつれて、お客さんの足が遠のいて、このコロナで本当にとどめを刺されたような状態になっています。タクシーも呼んでもなかなか来ない。運転代行も暇やのに何で来ないのかなと思つたら、行つても客がないから新内に出てないのです。ほんとに全部、夜の水商売に関わっている全体が、不景気で苦しんでいる状態です。

これ以上申し上げる事は無いのですが、民商として、こんな時に力になりたいのですが、なかなか自治体と交渉しても、うんと言つてもらえない。あかん時に助けられないという、残念な気持ちです。それでも粘り強く、これからも自治体と交渉して、現状を訴えて、今苦しんでいるママさん達と一緒に、生の声を聞いてもらおうというようにも考えています。

鈴木：井上さんの報告を聞かせていただいて、私が思っている以上に厳しい夜の街の現状というのが分かりました。今、飲食業者さん、コロナ以前とコロナ後で売り上げの変化など、数字の推移みたいなものはどうでしょうか。

井上：支援金の申し込み時に聞くのですが、現状を分析したらほぼ全員が50%以下です。中には30%ほどの方もいるのですが、でも業種によったら20%下がった

ら、営業できない業種もあるのです。スナックなら利幅があるのですが、利幅のない業種は20%下がったらもうやつて行けません。

鈴木：井上さんのお話で、行政の方と交渉したりしてご苦労されていらつしやるお話をされてましたが、確かに民商の出番であるけれども、行政がどうしてテールにつかないのかというところも、やはり、もっと情報として民商としても発信していくべきではないかなと思うのです。やつぱり市民に広く知られていない

と思うのですよ。支援金が次々度々出ています。そうすると支援されているという風に一般市民は思ってしまう。このところを民商として情報を発信していく、そして様々な、アクションというか、さっきスナックママさんと一緒にという話もされていましたが、それも含めた事をしたいのかと思います。

私、和歌山に住んで50年になりますが、その頃行つた新内と今の新内を比べると、随分変わったと思うのです。新内の持つていた、夜の街の品格っていうのが、この50年で随分失われてきたと思います。かつてあった古い料亭とかもビルに変わつてすっかり姿を消してしまいました。そういう所がコミュニティの場所になっていましたが新内から失われて久しいと思っています。さらに今、新内というコミュニティの衰退が、コロナが拍車をかけるなど思いますが、今の報告を聞きまし

県下各地から②

白浜町の地域公共交通を 充実させるために

白浜町議会議員 横畑 真治

県下各地の運動や話題について、投稿をお願いします。
今回は西牟婁地域です。

白浜町の バス路線の現状

2014年（H26年）10月
に日置川地域で路線バスが廃
止され、公共交通を確保する



白浜町コミュニティバス（朝来駅）

ため、白浜町地域公共交通会議での協議を経て、民間事業者に委託して白浜町コミュニティバスが運行されました。路線はJR朝来駅を終点に日置川地域を東西に通る川沿線、JR日置駅を中心に南北に結ぶ三舞線で、定期便と電話予約する予約運転を組み合わせています。運行は週6日（日、祝日除く）。運賃は大人1回300円（高齢者等200円）です。一方旧白浜地域では、路線バスの巡回バスが



横畑真治さん

走っています。
しかし、バスルートから外れた地域やバス停まで遠い高齢者等の方は、タクシーを呼ぶしかなく経済的な負担になっていて、ドア・ツー・ドアの移動手段の実現を望む声が出されています。

先進地の 三重県熊野市の視察

先日、乗合タクシーで地域の交通手段を確保している三重県熊野市に視察に行きました。熊野市は人口16千人弱、面積373㎢と広い行政区に集落が点在し、高齢化率44%で交通手段が重要な地域です。

熊野市では2010年（H22年）から山間部の一部地域で地域住民主体のNPOが交通空白地域有償運送の制度で家用車での有償運送を始めました。しかし、市全体に広げるのは難しく、熊野市では2013年（H25年）からタクシー業者に委託し乗り合いタクシ制度を導入。その後運行ルートを拡充させながら現在に至っています。ルートは山間部、市街地、海岸部など4ルートで有償運送と合わ

せて概ね全市をカバーし、運行は週5日（土日、祝日除く）で一日7便、電話で予約します。料金は1回300円。ドア・ツー・ドアの移動手段として車が入れる自宅まで来てくれますが、目的は公共的施設、医療施設・福祉施設、商業施設等あらかじめ決められています。

白浜町への要望

9月議会で、白浜町の今後の公共交通の充実について、町民の要望などから検討会の立ち上げや具体的な取り組み

を要望しました。
町当局は、令和2年に改正された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき「地域公共交通計画」を今年度で作成しようと、白浜町地域公共交通活性化協議会を立ち上げ、課題抽出のための住民利用者アンケートを実施し、これからの白浜町の公共交通の在り方の検討をしていくとの考えを示しています。

高齢者などで生活を続けて行く上で欠かせない公共交通の充実のため、今後も取り組みでいきたいと思っています。

お知らせ

和歌山県地域・自治体問題研究所では、会員の情報共有、交流のために、グループLINEを立ち上げました。ぜひご参加ください。

スマホで「和歌山地域・自治体問題研究所友だち追加のQRコード」を読み込んで参加してください。

●グループLINE 参加手順

- ① LINE を開く
- ② 「ホーム」画面上部の👤+をタップする。
- ③ 「友だち追加」画面上部のQRコードをタップする。
- ④ 「友だち追加のQRコード」を読み込ませる。

「和歌山地域・自治体問題研究所
友だち追加のQRコード」

